

3. 5歳児事例

林 博之 高城 香織

事例5-1 「みんなーピクニックに行くよ」

5月14日(火)


前日、レストランごっこをしたい幼児が集まり、画用紙等でそばやおかずをつくって楽しんでた。しかし、かたづけてみると、明日に続けられるものが残っておらず、また、お客さんの幼児が「全然本物っぽくないね」と言っていた。

この日、幼児にどんなレストランをしたいか確かめると、お寿司のレストランをしたいと言う。板段ボールをくるくるとまるめたエビのお寿司や緩衝剤をいくらに見立てたお寿司など、素材からイメージして思い思いの寿司を作り始めた。あれこれと幼児同士で話しながらつくることに夢中になっているので、教師はいったん場を離れることにした。

事例	学びの分類・考察
<p>20分ほどたち幼児に呼ばれて戻ってみると、いろいろな種類のお寿司ができていた。幼児はそれを①<u>トレーや箱にきれいに</u>つめている。するとT児が汗拭き用のハンダオルで①<u>お寿司の箱を包んでもってきた</u>。</p> <p>教師 「T児ちゃん、包んでいるの？」 T児 「うん。お弁当もってピクニックに行こうと思って」 教師 「お弁当かあ！なるほど！行こう行こう」 T児 「みんなー②<u>ピクニックに行くよ</u>」 U児 「このかごにお弁当つめていこう」 T児 「あっちで眠れるように②<u>布団も持っていこう</u>」 U児 「この②<u>机も持っていったら</u>どう？」 A児 「まって、このお弁当作っちゃうから」 A児は、小さな容器にお寿司をきれいに詰め始めた。 U児 「②<u>ポテトも持っていこう</u>」(お菓子の箱) T児 「②<u>おやつも持っていこう</u>。あと②<u>シートもいる!</u>」</p> <p>みんなが思い思いの荷物を準備しているとP児がやってきた。ピクニックに行くことを知ると、 P児 「ぼくたちがピクニックの③<u>案内人になってあげるよ</u>」 T児 「④<u>じゃあお願いします</u>」 P児 「<u>わかった!ちょっと待ってて!</u>」</p> <p>しばらくすると、リレーをしていた幼児らがやってきて、⑤⑥「行くよー」と言いながら先導した。<u>みんなその後について並び、歩き始めた。</u></p>	<p>①<u>つくったものの使い方を考える</u> (知的) お寿司をつくるだけで終わらずに、つくったお寿司に合うように容器につめたり、お弁当に見立てて遊びに使ったりする等、使い方やしたいことを考えている。</p> <p>②<u>友達とイメージを共有して遊ぶ楽しさを感じる</u> (心的) 「ピクニックに行くよ」と声があがり、必要な荷物の準備をする中で、幼児はピクニックのイメージをふくらませ、共有している。ピクニックに行つてどんなことをしようか、その楽しみが準備の様子に表れている。</p> <p>③<u>友達のイメージを理解し、違う役割で参加する</u> (社会的) 幼児らはこの日までに2度里山へ行き、インストラクターの方が教えてくれたり案内してくれたりすることを体験してきた。友達や先生とは違う立場の人の存在を知り、役割になりきって遊んでいるのではないか。</p> <p>④<u>自分の思いや考えを受け入れてもらえうれしさを味わう</u> (心的) P児が案内人になることを提案すると、T児は「お願いします」と受け入れてくれた。すぐに友達を呼びに行き、何人も連れてくる姿から、そのうれしさが感じられる。</p>

事例	学びの分類・考察
<p>目的地（時計の下）につくと、シートを広げて⑥お弁当を食べるまねをし始めた。食べるまねをし終わると、布団にもぐり⑥寝るまねをしたり、「遊びに行こう！」といて遊具のところへ⑥遊びに出かけたりしている。A児とS児はぐちゃぐちゃになった⑥お弁当をきれいに片づけていた。</p> <p>P児 「僕たちゴミ箱もってくるね」 誰も返事をしないうちに走って行ったが、R児、J児とともに箱を持って戻ってきた。</p> <p>P児 「③ぼくたちゴミ収集車だからね。 ゴミはありませんかあ」</p> <p>R児・J児 「ゴミはありませんかあ」 空になったトレイやカップを渡すと「ありがとうございます」と言い、走って保育室へ戻って行った。すると、またすぐに戻ってきて「ゴミはありませんかあ」と言い、かたづけのものを渡すと保育室へ走っていく。これを何度も繰り返していた。</p> <p>幼児 「かたづけの時間だよ」 教師 「もうかたづけだねーおうちに帰ろう」 幼児らはみんなシートをたたみ、案内人に先導してもらって保育室へ戻っていった。T児「遠回りしてね、遠回り」と嬉しそうに⑥並んで歩いて行った。</p> <p>かたづけの時にはU児が「全部この中に入れておこう」と言って、お寿司を冷蔵庫にしまい始めた。（U児は準備のときに「先生、これ冷蔵庫にしたらどう？」と棚を冷蔵庫に見立て、きれいにふいて運んでいた。）それを見た幼児らも使ったものを⑦⑧すべて冷蔵庫にしまい、すっきりとかたづけを終えた。</p>	<p>⑤友達と集って楽しむ（社会的） 友達と一緒に列をつくって歩くことを楽しんでいる。目的地に着くまでの道というイメージを共有していることで、歩くことも楽しんでいる。</p> <p>⑥ピクニックのイメージでなりきって楽しむ（心的） これまでの生活経験をもとに、歩く、目的地に着く、食べる、遊ぶ、帰るなど、自分のピクニックのイメージで楽しんでいる。</p> <p>⑦つくったものに愛着をもつ（心的） 前日は残すものがなくかたづけをする意欲もわかない様子だったが、この日はかたづけまで楽しんでいた。</p> <p>⑧明日への見通しをもつ この日は自分達でつくったお寿司を、冷蔵庫に見立てた棚にきれいに並べていた。楽しく遊んだお寿司を使ってまた明日も遊びたいという思いがわかる。</p>



事例	学びの分類・考察
<p>○児が①1人で色水をつくっている。以前色水をつくったときは自分の思い通りの色にならず、もう1回つくると言っていた。実習生が側にいくと、色水のつくりかたを説明しながらつくってくれた。</p> <p>実習生「どうやって色水つくるの？」</p> <p>○児 「花を②③トントンとやるの。④水も少しだけ入れるんだよ。ほらピンク色」</p> <p>実習生 「どれくらいお花をいれるの」</p> <p>○児 「いっぱい、④あと10こ」</p> <p>その様子を見にきたQ児は、花を10こほど摘みに行き、○児がつくっている色水のボウルの中に入れた。</p> <p>○児 「⑤ちーがーう！」</p> <p>実習生 「何がちがうの？」</p> <p>○児 「⑤茎が入ったらだめなの！」</p> <p>○児は茎付きの花を取り出し、花びらと茎に分けてボウルに戻し、またつくり始めた。実習生が「赤い色濃くなったね」と言うと、○児は④水を足して色を調節してきた色をながめている。花びらが浮いてきたので実習生が、「この花びらどうするの」と聞くと、おたまで浮いている花びらを②③すくって別のボウルに取り出し「ほら、きれい。」と言い、色水をボウルからペットボトルの中に②③注いだ。</p> <p>○児 「⑥⑦きれーい」</p> <p>色水が出来上がったと嬉しそうにしていたので担任も声をかけた。</p> <p>教師 「○児ちゃん、どう？できた？」</p> <p>○児 「うん！」</p> <p>教師 「○児ちゃんの思った通りの色？」</p> <p>○児 「⑦うん！ほら！」</p> <p>教師 「うわあきれいな色になったねえ。この色がよかったんだ！」</p> <p>○児 「うん」</p> <p>○児は色水を⑧大事に持ち帰った。</p>	<p>①目的をもち取り組む (心的) 前回の色水が思い通りにならなかったため、自分の思い通りの色水をつくりたいと○児はずっと思っていた。つくりたい色のイメージを○児はもち遊び始めている。</p> <p>②色水づくりに必要な操作をする (身体的) ちぎる、分ける、つぶす(トントン) すりつぶす(ゴリゴリ)、こす、すくう、細い口にこぼさないように注ぐなど様々な操作を体得している。</p> <p>③目的に合わせた道具の使い方がわかる (知的) ○児はこれまでの遊びの中で、すりばちを使えば色がよく出ること、ざるを使えば花びらと色水を分けられること等、目的に合わせた道具の使い方を操作しながら学んでいる。</p> <p>④量感をつかむ (知的) 繰り返す中で、自分のつくりたいイメージと照らし合わせながら花びらや水の量を調節して使いこなしている。</p> <p>⑤色の出かたや濃さがわかり、必要なものと必要じゃないものを選別する (知的) 水を入れると薄くなること、花びらをたくさん入れると濃くなること、茎やがくは色がでないこと等を、繰り返す中で体験し、必要なものだけを取り入れて遊んでいる。</p> <p>⑥自分の目的に合うものができたか確かめる (心的) 直接比較をしているわけではないが、○児は前回と今回の色水の色の濃さを比べて、自分の思った通りか確かめている。</p> <p>⑦満足感・達成感を感じる (心的) 以前には友達が水を入れたことによって自分の思い通りにならなかった色水だが、一人で黙々とつくり思い通りの色水を完成させた。</p> <p>⑧つくったものに愛着をもつ (心的) ○児は自分のイメージにぴったりの色水ができ、満足そうに持ち帰った。思いのこもったものは自然と大事にしている。</p>
	

幼児の姿	学びの分類・考察
<p>砂場に山や池、川をつくり水道から竹の樋を使って水を引き込み遊んでいた。しばらく砂場で遊んでいると、竹の水路の継ぎ目で水が漏れていた。「なんか、水漏れの音がする」と教師がつぶやくと「あっ、あっちだ」とJ児、K児、I児が駆け寄っていった。駆け寄る途中J児が他の竹の樋を引っかけ竹の水路が途中で壊れてしまった。①I児が「とにかく」といい壊れた樋を持ち上げサッと直して水漏れしている所に急いだ。そこでは⑤K児が一人で直そうと試行錯誤したが竹が長く水も流れ続け、扱いにくいせいかうまくいかない。②それに気づいたI児が駆け寄り一緒に樋を組み立て直そうとしたが、うまく直せない。その様子に気づいたJ児が、③④「ストップ!水ストップ」と叫び、水を流しているG児に声をかけた。それを聞いた⑤G児は水を止めた。K児とI児は竹の樋を一緒に持ち上げ一緒に木の台に持ち上げようとする。⑥I児はうまく動かせない竹の樋に「こいつ、いうこときかんかい」とつぶやいた。K児はそれに併せて「フフフ」と笑いながらI児と一緒に竹の樋を組み直していった。</p>  	<p>①自分で考えて行動している (知的) 水漏れが見つかり、駆け寄ったI児だったが、さらに樋が壊れてしまって水が流れていかないことに気づく。この遊びを続けるには、この部分を直して水漏れしている所へ急がなければいけないと判断した。「とにかく」とつぶやき樋をサッと直して水漏れしている箇所へ向かった。</p> <p>②友達の状態を見て協力する (社会的) K児が樋の修理に手間取っている様子を見て、K児がどのように樋を直したいのかという思いを読みとった。しかし一人では樋を直すのが難しいと判断する。そこで一緒に樋を持ち上げ、協力して直そうとしていた。友達のしようとしていることや困っている状態を見て、協力して解決しようとしていた。</p> <p>③友達が作業しやすいように考える (知的) I児、K児が樋を直す様子を見て、J児は水が流れているとうまく作業が進まず、直せないと判断する。そこでまずは水を止めてから作業をしようとよいと考えた。 友達のやろうとしていることが、どうしたらうまくいきやすいか考えている。</p> <p>④他児に思いを伝えて自分のしよう思っていることを行う (社会的) 水を流しているG児に「ストップ!水ストップ」と声をかけ、I児とK児が樋を直しやすいようにした。友達が作業しやすいように考えたことを実行しようと、友達に声をかけ協力してもらいながら自分の考えたことを進めている。</p> <p>⑤友達の思いを受け止めて行動する (社会的) G児はJ児らが竹の樋を直していることを水道付近から見ていた。J児が「ストップ!水ストップ」と言った水を止めてほしいという思いを受け止めて、水を止めてJ児らが樋を直しやすいようにしていった。</p> <p>⑥自分の思った通りにならないことを感じる (心的) I児は竹が長かったり重かったりして、自分の思った通りに竹を扱えなかった。今持っている樋と樋を繋げれば水は漏れずにうまく流れるという見通しをもって樋を動かしているが、中々うまくいかなかった。何度も動かしてはうまくいかないことを繰り返す中で、自分の思った通りに樋を動かせないもどかしい気持ちを「こいつ、いうこときかんかい」という言葉で表し自分の思ったとおりにならないことを感じている。</p>

幼児の姿	学びの分類・考察
<p>A児, E児, C児, B児, L児, Y児, S児らは昨日の遊びで, コンサートをしようということになり, 自分の使う楽器まで決めていた。この日は①<u>コンサートに必要なものを各々考え, 用意を始めた。</u></p> <p>A児, E児, C児, B児は<u>巧技台を保育室へ運び込みステージをつくり, お客さん用のいすを並べていった。</u>Y児, L児は<u>コンサートのチケットを売るための売り場をつくり始めた。</u>コンサート会場や売り場が整うと, 演奏者が集まりリハーサルを始めた。担当する楽器は決まって, 昨日にも何度か練習していたことから, ②<u>今回は入場の練習, ステージでの立ち位置の確認, 楽器の持ち方の確認から始まった。</u></p> <p>A児, E児が中心となり「つき組が入場します」とアナウンスの後みんなが足踏みで入場し「全体止まれ」とA児が合図する。③<u>友達が途中笑ったり, 走ったりすると「笑わないで」「走らないで」と声をかけたり, やり直したりするよう声をかけていった。その声を聞いて, 一緒に入場していた幼児も互いに声をかけ合って入場していった。</u>またステージに並ぶ友達の様子を見て立ち位置が均等になるように「もう少しこっちに行って」と声をかけ合っていた。何度か入場の練習, 立ち位置の確認を繰り返し, 入場の仕方や立ち位置にまでうまくいけるようになると, 演奏のリハーサルが始まった。</p> <p>④E児が<u>ステージの前に指揮者のように立ち, みんなを見渡したり, ステージの周りを歩きながら, 演奏の様子を一人一人見て回ったりしていた。</u>演奏を聴きながら, ⑤<u>鈴の音量が足りないことに気づきL児に「これ使って」と両手に鈴もてるよう手渡した。</u>L児は<u>頷き鈴をサッと受け取り演奏を続けた。</u>トライアングルや小太鼓が演奏する所に迷い困った表情を見つけると, 「ここ, ここ」と声をかけ, リズムと取りながら一緒に<u>たく振りをして弾く部分を教えていった。</u>演奏する場所に戸惑っていたB児, S児は<u>ホッとした表情を見せ, リズムをとりながら演奏を続けていった。</u>演奏を聴きながらタンバリンの音が小さく数が足りないと感じたE児はタンバリンを持ち出してきて, 前に立ちながらタンバリンを鳴らし演奏を続けられるようにしていった。みんなの前で演奏を聴いて, 気になる所には楽器を弾いている友達の所に駆け寄り声をかけることを繰り返していった。演奏者もアドバイスを受けて思い通りにできるようになり笑顔を見せながら演奏を続けていった。</p>	<p>①<u>コンサートに必要なものを見通しをもちながら準備を進める</u> (知的) コンサートを行うために必要な, ステージや客席, チケット売り場が必要であると気づき, リハーサルを始める前に必要なものを揃え, リハーサル後すぐに本番が始められるように見通しをもって準備を進めた。</p> <p>②<u>聞いてもらう相手を意識した練習をする</u> (知的) 前回までには, 担当する楽器を決め演奏の練習中心であったが, 今回は本番を意識し, ステージに立つ前からの動きを考えながら練習を行った。</p> <p>③<u>その場に必要な動きを考え, 声をかける</u> (社会的) リハーサルを行う中で, 本番のように真剣に動くことが必要であると考えたA児は, 途中走ったり笑ったりしてしまう友達に, 少し厳しく声をかけたり, うまくできるまで繰り返し練習をやり直したりした。</p> <p>④<u>演奏がどのようになっているか確かめるために, 演奏に加わらずに前に立つ</u> (社会的) 演奏者全員がステージに上がってしまうと演奏がどうなっているのか確認できないと判断したE児は一人ステージの前に立ち, 演奏がどうなっているか, 友達が曲にあわせて楽器を鳴らせているのかを確認しようとした。</p> <p>⑤<u>友達のアドバイスをしたり, それらを受け入れたりしながら演奏する</u> (社会的) E児は演奏を聴きながら, それぞれの楽器が決まった場所で演奏しているか, 音量は足りているかなどを確認していた。うまくいっていない部分ではE児が演奏中に個別に演奏をよくするためにアドバイスしていた。演奏者はE児のアドバイスを受け入れ演奏の仕方を確認していった。</p>

幼児の姿	学びの分類・考察
<p>①Y児, K児, D児, Q児, E児らは砂場に水を流すため、竹の樋3本とゲームボックス、木の台を組み合わせていた。砂場の幼児らは手やスコップを使って道を作ったり穴を掘ったりしている。</p> <p>②1本目と2本目の樋の間に隙間ができていたので、③Y児は手で支えて少し近づけながら④「いいよー」とQ児に合図をし、Q児は水を流した。K児は2本目の中央を支え、D児は2本目と3本目の間にいた。</p> <p>⑤1本目と2本目の間からは水がこぼれ、3本目の樋は台から落ちた。</p> <p>K児 「④止めてー！」 Q児 「止めた！」 E児 「②やっぱ無理やな」 Y児 「もうちょっと長いほうがいいんじゃない」 D児 「④いっかい止めてー！」 Y児 「もう止めたよ！」</p> <p>③D児とK児は2本目と3本目の間の樋を重ねて調整した。</p> <p>すると⑤2本目の樋の傾きが逆になり、上手側が下向きになった。</p> <p>②③そこでY児は2本目のところに木の台を置き高くしようとしていた。 D児 「④おっけーい！」 D児の声を聞いたQ児が水を流し始めた。しかしY児の木の間はまだうまく置いていない。 Y児 「②だめだってこれじゃあ」</p> <p>樋が下向きなので、⑤水はこぼれて流れない。</p> <p>Y児 「②ほらーへんじゃん」</p> <p>③K児は下向きの樋を上へ上げ、水が流れるように支えながら、②顔を左右に何度も動かし、しばらく考えている。 K児 「②ここ(隙間)にこれ(木の台)を…」 ③K児は木の台を上手側にずらし、さらに隙間がなくなるように樋を上手側にずらした。</p> <p>すると⑤2本目と3本目がずれて3本目が落ちてし</p>	<p>①友達と共通の目的をもって遊ぶ (心的) 幼児は樋を使って砂場に水を流したいという目的を共有し遊び始めた。</p> <p>②今の状況で水が流れるか予想し、流れるように考える (知的) 幼児は、その時の状況を見て、水が流れるか予想したり、どうすれば水が流れるか考えたりしている。</p> <p>③水が流れるように竹の樋の重なりや傾きを調節する (身体的) 幼児は、水が流れるための樋の感覚や高低差、樋の重ね方を体得してきている。②を考えるのとほぼ同時に(反射的に)樋を調節したり台を動かしたりしている。</p> <p>④友達と声をかけ合いタイミングを合わせたり状況を伝えたりする (社会的) 水道まで距離のある砂場に長い樋を使って水を流すことは、一人ではできないことに幼児は気付いている。そのため、大きな声で合図を伝え合い友達とタイミングを合わせたり、うまくいかない状況を伝えたりしている。うまくいかない状況では、友達の行動に伴って自分の目の前の樋の状況が変わることも気づき始めている。</p> <p>⑤試した結果を見て、うまくいかないことに気づく (知的) ②③④を試してみて、うまくいかないこと、失敗、課題に気づき、なぜ失敗するのか、どうすればよいかを考え②に戻り②③④を繰り返している。</p>

まう。

D児 「④うわああああ！なんでくずすの！」

K児 「くずしてないよ！」

D児 「そっち動かしたらここも落ちるもん！」

③D児はもう一度、2本目と3本目の樋を水が流れるように重ねた。

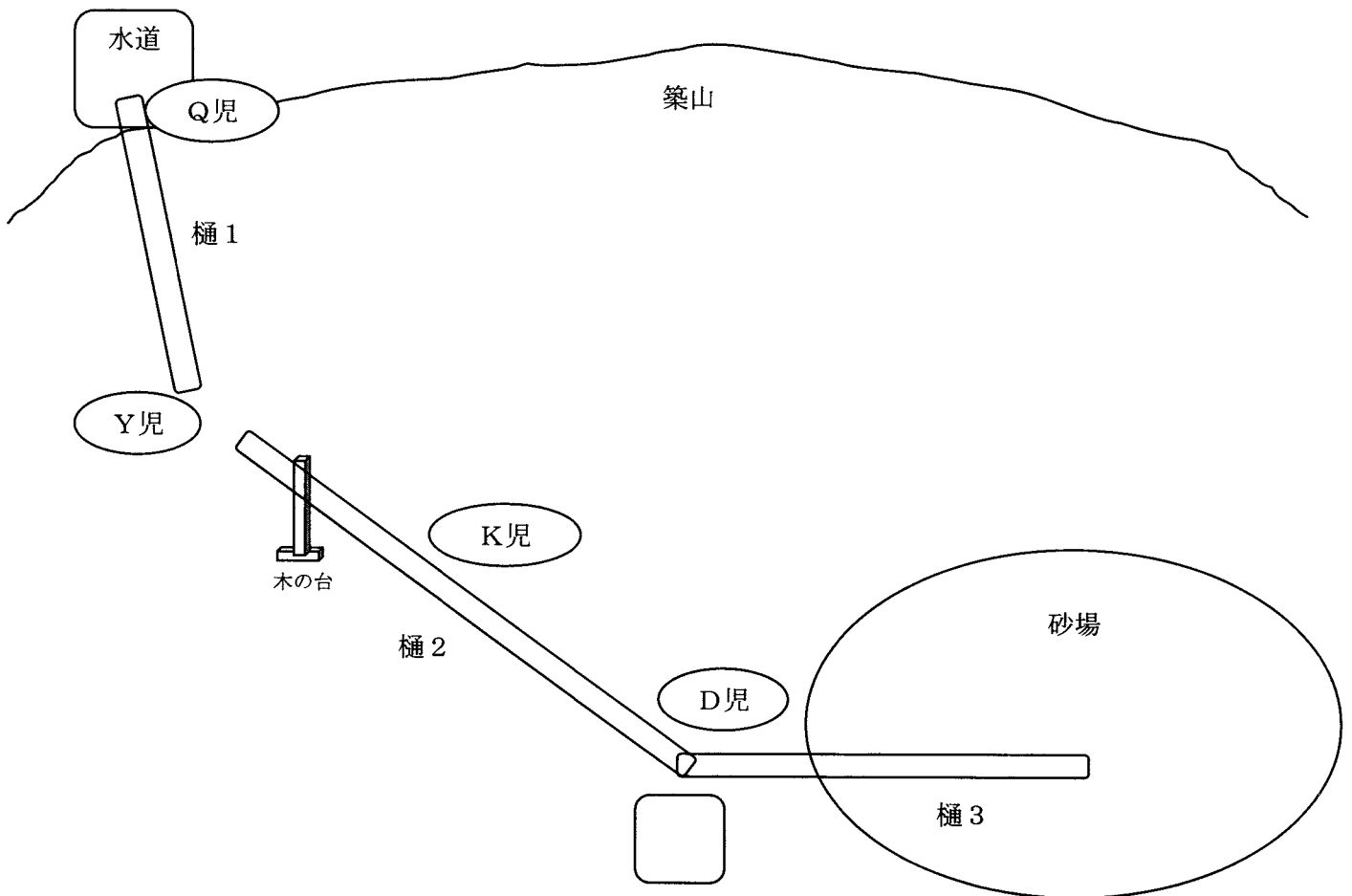
D児 ④「出して！おっけい！」

水を流してみると、今度は水が流れた。

⑥K児は「こっちはどうだ！」と言うと水の流れを見ながら樋に沿って走り、うまく流れているのを確かめると、穴を掘っている場に加わり穴を掘り始めた。「水がきますー」「そこは（水）止めないで！」と声をかけ合ったり、「コーヒーみたい」「土がやわらかくなってきたね」と水が混じった土の感触や変化を楽しんだりしながら遊びが続いていった。

⑥うまく水が流れたことに満足感をもつ (心的)

K児は砂場に水が流れていることを確かめると、すぐに穴を掘り始めている。砂場に水を流したかった思いが見て取れた。



C児が家庭でつくったスタンドマイクを持ってきた。自作の歌を歌い始めたことをきっかけに、C児、B児、Y児、F児、L児、A児らでカラオケの発表会をしようということになった。歌う人、司会、会場等の準備の人と分かれカラオケの準備が始まった。

幼児の姿	学びの分類・考察
<p>F児、L児、B児、A児らは大型積み木でステージをつくり、マイクを並べ終わった。<u>①L児が「司会だれ？」と聞くとF児が「はい、ここにいるよ」と答えた。A児はスタンドマイクが不安定で倒れそうなことに気づき「私おさえる係」と言いマイクの根本に座った。L児は舞台を見渡し、②司会をする時にスタンドマイクが邪魔であることに気づいた。L児はC児、A児、B児に「最初は、これはなくて、司会が終わったらこれを用意するの」とはじめはマイクをステージの外に出しておき、司会が終わったらステージに入れることを提案した。</u>それを聞いていたF児、A児、C児は納得し、A児の③「じゃあ、やるよ」の声でマイクをステージの外に出した。その後①L児は再度ステージを見渡し、「F児ちゃんこの場所ですらだよ」と司会の立つ場所を教えた。③F児はニコニコしながら一緒に立つ場所に行き確認していた。F児は「今から・・・」と小さな声で練習をしている。その様子を見ていたC児は①「第1部はって言ってね」と耳元でF児に伝えた。F児は頷き小さな声で練習を続けた。</p> <p>ステージの準備が整いいよいよカラオケの発表会が始まることになった。うれしくなったA児が「今から始まるよー」と部屋にいる友達に声をかける。それを聞いていたC児は④「それはF児ちゃんが言うの」と司会のF児の仕事であることを伝えた。それを聞いたA児はハッとした表情を見せ、それからは言うことを控えて司会のF児の言葉を待っていた。用意した椅子に友達が座るのを確認してから「今からカラオケをはじめます。第1部はドレミの歌です」というF児の言葉でカラオケの発表会が始まった。</p>	<p>①今までの生活や遊びを活かして声を掛け合う (社会的) L児、A児、C児らは発表会の準備をする中で、司会の役の確認セリフの確認、マイクを支えE児ど自ら必要なものに気づき、友達に声をかけたり、自ら動いたりして発表会を行えるようにしていった。</p> <p>②場の使い方を考え友達に提案する (社会的) L児は舞台の準備を進める中、スタンドマイクが並んでいると、司会のF児が舞台に立った時に邪魔になると気づいた。その後F児、C児、A児を集めてマイクを動かしてから司会をし、その後またマイクを舞台に入れるとよいと提案した。</p>  <p>③友達の提案を受け入れて行動する (社会的) C児、A児、B児はマイクの出し入れの提案に対して発表会がうまく進むと判断してすぐにその提案を受け入れて行動に移した。F児は司会の立ち位置の確認についても発表会をうまく行いたいという思いを共有しているため、ニコニコしながらそれを受け入れ確認していた。</p> <p>④自分たちの役割を意識する声かけをする (社会的) カラオケの発表会の準備が整い、お客さんを集め、A児が「今から始まるよー」と声をかけていた。それを聞いていたC児は、始まりや終わりは司会のF児がすることと思いい、A児に司会が言うことであると伝えた。それを聞いたA児も役割を分けていたことに気づき、F児の言葉を待っていた。</p>

F児、C児、B児、A児、L児らは司会や歌う人、会場の準備を手伝う人などに分かれて、カラオケの発表会を始めた。F児が司会、A児がマイクを支える係、L児が舞台のいろいろな準備を手伝う係として動き始めている。F児の司会からB児、C児の順で歌い始めた。3番目はC児とA児が二人で歌い、4番目はA児が歌う予定で、最後にみんなで歌って終わろうということになった。

幼児の姿	学びの分類・考察
<p>2番目のC児が歌い終わり、F児の司会で第3部が始まった。A児、C児がみどりのマーチを歌い、L児が舞台上で曲に合わせて踊っていた。</p> <p>第3部が終わり「次は第4部、明日は晴れるです。A児ちゃんお願いします」とF児が言い終わったと同時にかたづけの時間になってしまった。かたづけの声が聞こえる中はA児、B児、L児、C児らは①「えー、もうちょっとしたーい」と教師に声をかけた。しかしこの後、<u>学年で集まることもあり、時間を延ばせないことも幼児は分かっていた。そこでA児は教師に「最後まで歌ってもいい？みんなで歌って終わりなの」と自分の歌う番を飛ばして最後のみんなで歌いたいと言う。</u>教師が「大丈夫だよ」と答えると「やったー」と嬉しそうに声をあげた。</p> <p>そのやり取りを見ていたB児、F児、C児らも喜び②「みんなで歌うよー」と言いながらステージに上がり踊りながら歌い始めた。③歌い終わると満足そうな顔をしながら舞台を降りていった。</p> <p>③④最後にF児が残り「これで終わります」と満足げな顔をしながら言い、大きく礼をしてカラオケの発表会が終わった。</p>	<p>①次の活動を考えて、遊びの続きを考える (知的)</p> <p>A児は遊びの後に学年で集まるため、遊びの時間を長くは延ばせず、自分が歌った後、最後にみんなで歌うことは難しいと考えた。そこで自分一人で歌う番をあきらめ、みんなで歌い、発表会を最後まで行おうとした。</p> <p>②終わり方に折り合いをつける (心的)</p> <p>かたづけの時間になり自分たちの計画した通りに発表会を続けられなかった。しかし教師に交渉し少し時間を延ばせたことで最後に歌うみんなでの歌を歌うことができた。予定とは異なったが時間内で出来ることを決め歌い終えることができた。</p> <p>③最後まで自分の仕事を行う (社会的)</p> <p>最後の歌を歌い終わった後、C児、B児、A児は満足そうな顔をして舞台袖へ下がり、かたづけを始めようとしていた。そのような中、F児は一人舞台に残り「これで終わります」と言い、大きく礼をして司会の仕事を最後まで行った。</p> <p>④決まった時間の中で自分達のやりたいことをやりきった満足感を味わう (心的)</p> <p>自分達で役割を決めたり準備したりしてすすめてきたカラオケの発表会を決まった時間の中で、はじめに予定していたものに変更を加えつつも、最後までやりきったことに満足感を味わった。</p>

